

景気動向調査

期間：2025 年 1 月～ 3 月 作成：川西市商工会

【小規模企業景気動向調査】(令和 7 年 2 月期調査 全国商工会連合会 3 月 28 日発表分 参照)

<産 業 全 体>

◇…大雪や寒波が業種により異なる影響を与えた小規模企業景況…◇

2月期の産業全体の景況は、売上額・業況DIが小幅に低下、採算DIはわずかに低下し、資金繰りDIは不変であった。大雪や寒波の影響に関するコメントが複数の業種であり、好影響を受けた業種と悪影響を受けた業種で差が広がる結果となった。産業全体として景気改善を図るには、賃上げによる個人消費の回復が必須であり、引き続き価格転嫁に向けた取組みを社会全体で進めていくことが重要である。

<製 造 業>

◇…継続する停滞感の中、業種による差が広がり始めた製造業…◇

製造業は、採算・資金繰りDIがわずかに上昇し、売上額・業況DIはわずかに低下した。食料品関連は、採算・資金繰りDIが小幅に上昇した。米等の生鮮食品の値上がりについての厳しいコメントが多い一方で、数十年ぶりに値上げをしたところネガティブな反応がなかったというコメントなど、価格転嫁に関する前向きなコメントも継続している。繊維関連は、全てのDIが低下した中、機械・金属関連は、全てのDIが上昇した。電気自動車と半導体需要が堅調とのコメントが継続しており、業種による差が見受けられた。

<建 設 業>

◇…地域差が見られるものの、改善傾向が継続している建設業…◇

建設業は、売上額・資金繰りDIが小幅に上昇、採算DIは大幅に上昇し、業況DIはわずかに低下した。前月から引き続き、昨年と比較して降雪が続いたことにより、除雪作業を請け負っている事業者は好況であった。全国的に新築工事の需要が低迷している中、公共工事が業界を下支えしている傾向は変わらず、公共工事が減少している地域については厳しい状況とのコメントが多い。また、昨今、全国的にも労災事故の報告が増加している影響から、受注の条件として各種の有資格が求められてきており、受注が制限されることがあるとのコメントがあった。

<小 売 業>

◇…2カ月連続の小幅な悪化により、他業種との差が広がった小売業…◇

小売業は、売上額・採算・業況DIが小幅に低下、資金繰りDIはわずかに低下し、小幅ながらも前月の悪化傾向が継続している。業種別DIにおいても、全業種の全てのDIが低下する結果となった。また、前年同月比でも全業種の全てのDIが低下した。2月は、例年需要の落ち着きが見られる閑散期ではあるが、仕入れ価格やエネルギー価格の上昇による厳しさが継続している中、大雪と寒波の影響で客足が遠のいたことが、暖冬であった前年同月と比較してDIが低下した要因として挙げられる。

<サービス業>

◇…>悪天候の影響を大きく受けたサービス業…◇

サービス業は、売上額 DI が大幅に低下、採算・資金繰り・業況 DI は小幅に低下した。サービス業についても、小売業と同様に前月比および前年同月比ともに全業種の全ての DI が低下する結果となった。小売業同様、大雪と寒波の影響で予約キャンセルが相次いだなど、客足への悪影響に関するコメントが多かった。インバウンド需要は継続しているものの、個人消費の低迷がそれを上回っている状況である。

産業全体

DI	1月	2月	前月比
売上額	74	49	▲25
採算	▲175	▲176	▲0.1
資金繰り	▲14.7	▲14.7	0.0
業況	▲128	▲150	▲22

製造業

DI	1月	2月	前月比
売上額	99	84	▲1.5
採算	▲189	▲182	0.7
資金繰り	▲150	▲135	1.5
業況	▲148	▲163	▲1.5

建設業

DI	1月	2月	前月比
売上額	11.1	13.4	2.3
採算	▲16.5	▲11.4	5.1
資金繰り	▲15.4	▲13.1	2.3
業況	▲7.9	▲8.9	▲1.0

小売業

DI	1月	2月	前月比
売上額	24	▲20	▲4.4
採算	▲21.7	▲25.5	▲3.8
資金繰り	▲17.4	▲18.9	▲1.5
業況	▲19.4	▲21.6	▲2.2

サービス業

DI	1月	2月	前月比
売上額	6.1	▲0.2	▲6.3
採算	▲13.0	▲15.6	▲2.6
資金繰り	▲10.7	▲13.2	▲2.5
業況	▲9.0	▲13.1	▲4.1

【兵庫県内企業動向調査】

●兵庫県の経済・雇用情勢（県 地域経済課 2月18日発表分）

本県の経済・雇用情勢は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している。

景況等…企業の業況判断は、コロナ禍以降のピーク圏内で推移している。先行きは慎重な見方となっている。

需要…個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、緩やかに回復している。

輸出は、横ばい圏内の動きとなっている。設備投資は、増加計画にある。

生産…生産は、横ばい圏内で推移している。

雇用…雇用・所得環境は、緩やかに改善している。

金融…倒産件数は、おおむね横ばいとなっている。

●県内景気の現状についての日本銀行神戸支店のコメント（2月12日発表分）

管内の景気は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している。

個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、緩やかに回復している。設備投資は、増加している。住宅投資は、弱めの動きとなっている。公共投資は、緩やかに増加している。輸出は、横ばい圏内の動きとなっている。

こうした中、生産は、横ばい圏内の動きとなっている。雇用・所得環境は、緩やかに改善している。消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回って推移している。

① 景況

現状（良い－悪い）構成比（%ポイント）

区分	R6.3	R6.6	R6.9	R6.12	R7.3(予測)
全産業	14	15	14	13	6
大企業	19	16	17	17	14
中堅企業	10	17	14	12	6
中小企業	14	14	13	11	3
うち製造業	9	9	5	7	2
うち非製造業	21	23	25	19	11

出所：県内企業短期経済観測調査（日本銀行神戸支店）

【川西市の経済動向等について（中小企業景況調査）】

※経営指導員による巡回時のヒアリングから見える川西市内の動向（3月）について

市内動向

市内の3月の景気は、一部に弱めの動きがあるものの、全般としては緩やかな回復基調が見られた。新型コロナウイルス感染症からの影響後、全業種において売上が増加したと回答した事業所が多く占めた。一方、原材料・仕入価格が上昇し続けており、収益状況は停滞若しくは悪化しており、経営環境に影響を及ぼしている。

4月以降については、食品・日用品の値上げに伴い、消費行動の抑制から横ばいや景気悪化を懸念する事業者が多い。

製造業

製造業では、取引先の影響により売上が悪化した事業所もみられたが、全体的としては緩やかな回復傾向がうかがえた。一方で、原材料価格や電気代などのエネルギー価格の上昇が続いており、収益状況は悪化し、依然として厳しい経営環境にある。今後については、円安やウクライナ情勢に加え、トランプ政権による関税問題の浮上も懸念されており、現状維持又は景気悪化を見込む事業所が目立った。

建設業

建設業全般では、公共事業の受注増により売上が上昇し、また、住宅関連では、建築基準法が4月から改正されることで新築やリフォームの駆け込み需要により売上は改善した。一方、収益については、原材料や人件費などのコスト上昇もあり、収益は上がっていない。総合的な景況感をみると、ややマイナス成長となり、前回調査で緩やかな回復を期待していたが厳しい結果となった。公共事業の受注増加が業況の底支えとなっている様子が見える。

小売・サービス業

小売・飲食業では、卒業式や送別会といった季節需要もあり、景気は大きく改善した。しかし、アパレル関係など一部に、季節外れの雪が降るなど天候不順で売上増加が予想より下回ったという声があった。人手不足の課題は、この度の調査では減り、人件費増に悩む経営者が増えた。

4月以降は、食品関連の値上げが予定されており、景気回復は横ばいを予想している。